

# やませみ 通信



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

## 川遊び・アユ釣りセミナー



NO. 40

平成 30 年 3 月

〈平成 29 年度の活動〉

- 4月 市民の森づくり（植樹）
- 5月 総会
- 7月 「市民の森」下草刈り  
川遊び・鮎釣りセミナー
- 8月 川のセミナー
- 9月 興津川クリーン作戦
- 10月 早川町新倉露頭視察
- 11月 森林探検隊
- 2月 市民の森づくり  
糸魚川-静岡構造線見学
- 3月 サイエンスピクニック

## 目次

- 1 「糸魚川-静岡構造線」の静岡側露頭を興津川支流で新発見  
「早川町新倉露頭視察」  
「興津川支流露頭見学」
- 4 「川遊び・鮎釣りセミナー」
- 5 「川のセミナー」
- 7 森林探検隊
- 8 市民の森づくり
- 9 平成 29 年度〈総会報告〉講演会  
「野生鳥獣による食害被害と新たな捕獲技術について」
- 10 興津川クリーン作戦に参加して
- 11 「サイエンスピクニック 2017」

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

# 「糸魚川-静岡構造線」の静岡側露頭を興津川支流で新発見！！

興津川保全市民会議 事業委員長 望月誠一郎

## 糸魚川-静岡構造線の巨大露頭発見

2017年6月、地質学者（工学博士）・塩坂さんが清水区西里の興津川の支流で、糸魚川-静岡構造線（以下「糸静線」という）上に巨大な新露頭を発見したというニュースを聞きました。

「国の天然記念物級の貴重なジオサイト」と評され、観光や教育への利用が期待されているとのことでしたが、正直のところ地質学に関心が薄かった私には、どれほどすごい発見なのかわかりませんでした。

## 糸魚川-静岡構造線はなぜ重要？

そこで、糸静線がなぜそんなに貴重なのかを調べてみることにしました。

すると、地球の地質学における日本の成り立ちの壮大な歴史の一端を証明する重要な発見であることがわかり、地質学がとても身近で、興味深いものとなりました。そして、私たちが住んでいるこの静岡市や興津川流域の地球史における位置づけを知ると、東海・東南海地震などの地殻変動は必ず起きることもわかりました。

## 糸静線を知ろう

ここでは、糸静線の成り立ちと静岡側露頭について、市民会議で実施した早川町の露頭（地層の特徴が顕著に表れている場所）の視察や興津川支流の露頭の現地視察などを通じて学んだ

ことをご紹介します。

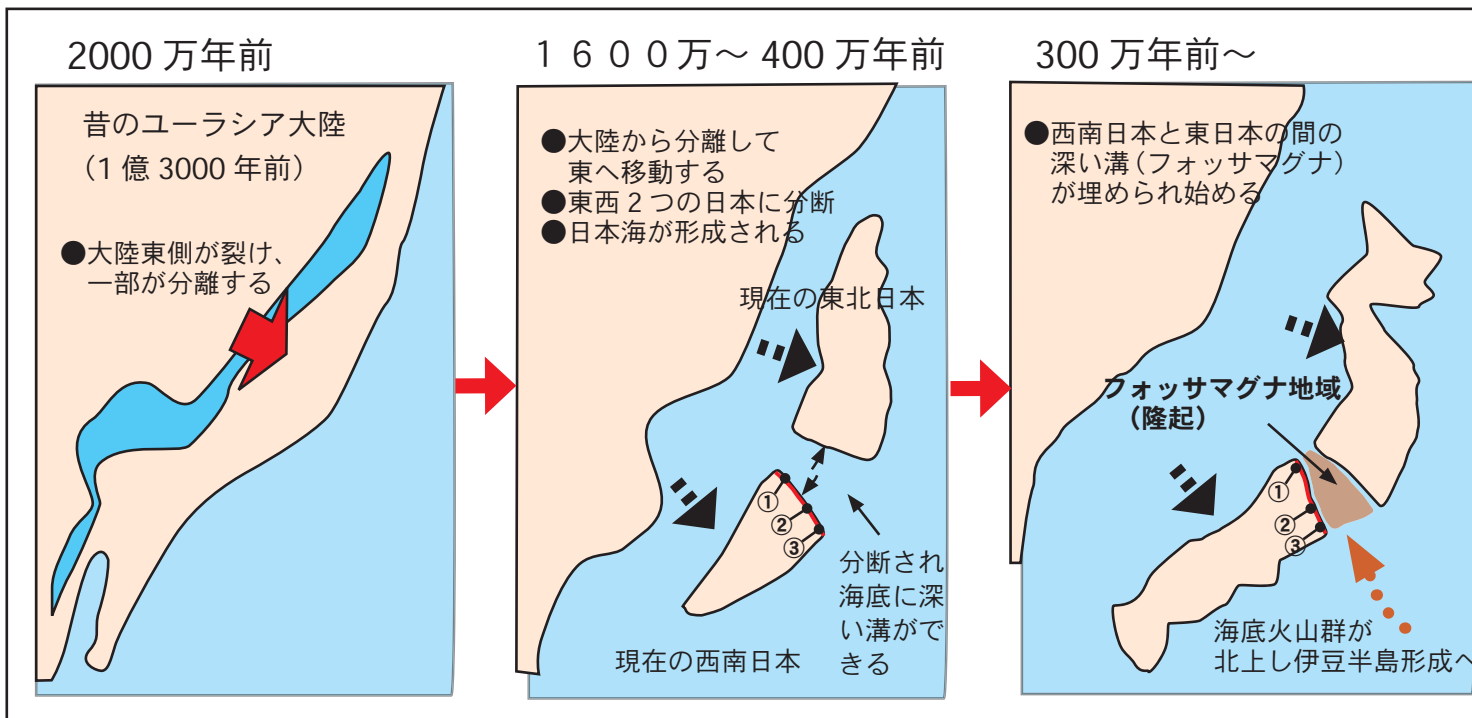
なお、説明内容や図は、私が既存の資料を参考として作成したものであり、正確性を欠くかもしれませんが、ご容赦ください。

## ①そもそも糸静線とは何か

糸静線は、親不知（新潟県糸魚川市）から諏訪湖を通って、安倍川（静岡市駿河区）付近に至る大断層線であり、地質境界線でもあります。

糸静線を境にして日本の地質および生態系は大きく異なり、東半分を東北日本、西半分を西南日本といいます。糸静線沿線の主な山や高地には、白馬岳、乗鞍岳、上高地、赤石岳、身延山などが連なり、また地溝部には構造湖の仁科三湖（青木湖、中綱湖、木崎湖）、諏訪湖が形成されています。

日本海側の東西境界線は新潟県と富山県の境に位置する親不知であり、内陸側の東西境界線は諏訪湖です。そして、太平洋側については、早川町の新倉（あらくら）地区に確認されましたが、静岡市側の詳細な位置は、小規模なものはありましたが、明確ではありませんでした。そこに、今回の静岡市側の発見により日本海から太平洋を結ぶ線が明確になりました。



**露頭（ろとう）** 岩石や地層が地表に露出しているところ。露頭からは地層の上下関係、化石や鉱物の産状をはじめとする様々な地質についての情報が得られる

## ②日本列島の形成過程と糸静線（下図参照）

### ・アジア大陸からはがれ日本の原型が生まれた

原始の日本列島は、現在よりも南北に直線的に存在して、アジア大陸の一部であったと考えられています。約2,000万年前に、プレートの沈み込みに伴う背弧海盆（沈み込んだプレートがマグマとなって上昇し、海溝の内側のプレートを押し広げることができるもの）の形成が始まりました。これによって日本列島の原型がアジア大陸から離れ、そこに海水が浸入し日本海が現在のように広がりました。（福井県に大陸と同様の約1億2000年前の恐竜の化石が発見されるのも大陸と繋がっていたからでしょう）

### ・折れて東西二つの島に分かれる

ただ、日本近海の花溝は向きが異なる南海トラフと日本海溝の2つだったため、日本列島は中央部が真っ二つに折られる形でアジアから離れました。折れた原始日本列島の間は日本海と太平洋をつなぐ海の花溝で結ばれました。

### ・隆起や伊豆半島などが押し寄せて一つになる

新生代にあたる数百万年の間に、溝には砂や泥などが堆積しました。そして数百万年前、フィリピン海プレートが伊豆半島を伴って日本列島に接近した時に、真っ二つになっていた列島が

圧縮され始めました。この時、間にあった海が徐々に隆起し、新生代の堆積物は現在陸地で見られる地層になったと考えられています。

## ③誰でも名前は知っている「フォッサマグナ」と「糸静線」の関連性や違いは何？

120年以上も前、ドイツの地質学者ナウマン博士（1854-1927）が、日本滞在中に10,000kmに及ぶ地質調査を行い、論文『日本列島の構造と起源について』で、東北と南西の二つの島の間にあった深い溝を「フォッサマグナ」と命名（1886年）しました。そして、西側の島の東端境界線を「糸魚川-静岡構造線」と名付けました。

## ④国際的に貴重な地形や地質を認定する「世界ジオパーク」とは何か

ジオパークとは、「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、楽しむことができる場所をいいます。

普段何気なく見ている山や川の花景色も、何億年、何千万年という長い年月をかけて続く地球活動の花営みにより形成されたものです。

その地球活動の花様子が見著に表れ、地質遺産として国際的な価値を有する貴重な地質や地形を持つ自然公園が「世界ジオパーク」として認定されます。

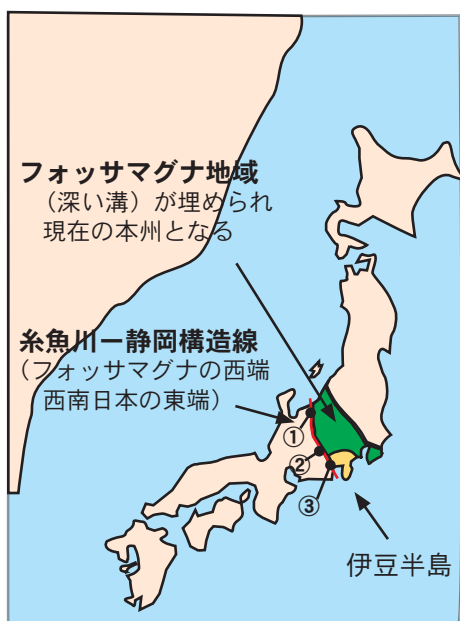
### ・今話題の「伊豆半島ジオパーク」

最近、「伊豆半島ジオパーク」の認定について話題となっていますが、「伊豆半島」の国際的な地質遺産価値は、『伊豆半島は、南洋の花海底火山群がフィリピン海プレートに乗って北上し、日本列島に衝突して形成されたもので、2千万年の間の火山活動の花繰り返して現在の半島の花形へと変遷された大地の花成り立ちが世界的にも特殊とされる』という趣旨で紹介されています。

### ・糸魚川ジオパーク（Itoigawa UNESCO Global Geopark2009）と糸静線

日本のユネスコ世界ジオパークは、洞爺湖有珠山（北海道）、室戸（高知県）、阿蘇山（熊本県）などの9地域ですが、2009（平成21）年8月に日本最初の世界ジオパークとして、糸魚川ジオパーク（新潟県）が認定されました。

## 現在の日本列島と糸魚川-静岡構造線



露頭の花位置  
①：糸魚川地区  
②：早川地区  
③：静岡地区

## 「早川町新倉露頭視察」

糸魚川は、ジオパークの名を世界で最初に冠した野外博物館で、パーク内では、日本列島を二分する糸魚川―静岡構造線の断層露頭が見られます。

断層破碎帯の左側には、2億6000万年前より古いものでできているやや暗緑色の変斑レイ岩が見られ、右側にはそれと比較すると新しい約1600万年前の安山岩が含まれている地層が見られます。これにより、日本列島がアジア大陸から離れる時にできた巨大な裂け目であるフォッサマグナの西端にあたり、これが日本列島の東西境界線の境目となる「糸魚川―静岡構造線」として確認できるのです。

### ・糸静線の位置を確認できる静岡側露頭

糸魚川―静岡構造線は、旧西日本の西端に当たる日本海と太平洋を結ぶ地層境界線をいいます。その存在を確認できる露頭が見られるのが、日本海側では糸魚川市、そして中央が早川町、そして今回確認されたのが、静岡市の興津川支流ということです。

### 早川町の新倉露頭の視察研修

市民会議では、10月に山梨県早川町新倉（あらくら）露頭を視察しました。早川の支流の河川の対岸に見られるこの露頭は、逆断層の露頭があり、2001年に国の天然記念物に指定されました。

### 興津川流域の新発見露頭の見学

2月3日に露頭の発見者である塩坂邦男先生に現地まで案内していただき、見学しました。斜面に露出する新倉露頭発見場所は、黒川の支流で、周辺には、ワサビ田がありました。露頭は斜面地にあり、20mに渡って連続して露出していました。断層の西側は、前期～中期中新世（およそ2000～1500万年前）の竜爪層群の固い地層で、東側は、後期中新世（お



## 「興津川支流露頭見学」

よそ、1000～500万年前）の静岡層群で、やや柔らかい、砂岩泥岩互層が露出していました。

この断層面は横滑りした後がはっきりと解り、柔らかい東側の幅30～40cmの半固結状態の条線（スリッケンライン）がはっきりと見られました。



断層境界線が地表に表れている

横滑りした際にできた断層面



### 塩坂先生の特別講演でお話を

この詳しい解説については、平成30年度の興津川保全市民会議の総会で、糸静線の静岡地区の露頭を発見した塩坂邦男先生の特別講演においてお話を伺います。

又今後も、現地視察を実施するなど、学習、活用の研究等をしていきたいと思います。

なお、現地はわさび田の農家の方の所有地であり、イノシシ対策の電気柵が設置されていることから、事前通行許可が必要です。

# 川遊びとアユ釣りセミナー

## 今年も多くの参加者により開催

今年度も当市民会議の人気イベントである「川遊びとアユ釣りセミナー」を開催しました。



## 清らかな興津川とともに1日を過ごしました

午前中は、アユの釣り方の説明を聞いた後、それぞれのアユ釣り名人の指導により、アユ釣り体験をしました。

お昼には、アユの塩焼きをおかずにお弁当を食べ、午後からは、川の中に入ってボート遊びをする家族やアユ釣りに再挑戦する人など、それぞれが清流の興津川に親しみました。

- ・アユの生態を利用した独特の友釣りの仕組みがわかった。
- ・初めてだったが3匹釣れた。
- ・水がとてもきれいで、子どもたちが気持ちよく泳いでいた。
- ・イカダに乗ったのがとても良かった。
- ・興津川がとてもきれいな水でびっくりした。又来たいです。
- ・いつまでもアユの住めるきれいな川に保ちたい。
- ・天然アユの塩焼きが美味しかった。



タモを使って泳いでいる魚採り！



アユが縄張りを持つという習性を利用した友釣りの方法を説明

# 「川のセミナー」～川の魚や虫にふれてみよう！捕まえた生き物を調べてみよう！～

興津川保全市民会議 静岡市役所 環境創造課 伊藤 晃伸

## 今年も多くの参加者により開催

今年度も当市民会議の人気イベントである「川のセミナー」を無事に開催することができました。事務局としまして、参加者の皆様をはじめ、東海大学の永井先生、北野先生、学生の皆様、事業委員及び関係者の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

## 午前は川での生物の採取

午前の部では、子どもたちは網を片手に川へ入り、魚をつかまえようとするのですが、やはり水の中では魚の方が一枚上手でなかなかうまく捕まえることができません。

先生方や学生の皆様に指導してもらいながら、ようやく捕まえたときの子どもたちの表情は何とも生き生きしていて、自然に触れること、楽しむことの重要性を強く感じました。



上流の興津川支流黒川での水生生物の採取



興津川の下流の承元寺橋上で水生生物を採取



## お昼はお楽しみの流しソーメン

お昼には例年のお楽しみとなっている流しソーメンを用意し、参加者みんなで楽しいお昼ごはんとなりました。かく言う私も竹の上を流れていくソーメンを口にするのは久しく、豊かな自然の中で食べるおいしさは格別で、贅沢ですらあると感じました。大人も子どももお弁当を食べた後であるにもかかわらず、たくさん食べてくれ、貴重な体験を提供できたのではないかと思います。



みんなで食べる流しソーメンはおいしいね

## 採取した生き物を自分で調べてみよう

午後の部では、最初に、北野先生、永井先生から興津川のアユなどの生物についての講義をしていただきました。



永井先生の授業「魚は何を食べているのかな？」

そして、今年は子どもたちがお話を聞くだけでなく、川で自分たちが捕まえた魚や虫を自分たちで調べて学習するように先生方に講義を組み立てていただきました。始まる前は、子どもたちが疲れてしまって自分で調べる元気が残っているだろうかと心配していましたが、午後の部が始まると自分たちが捕まえた生きものと参考資料を見比べ、わからないところは積極的に先生や学生に質問していました。親子が一緒になり、生き物の生態に興味津々、というような様子でした。



採取した水生生物を調べる

## 参加者の皆さんの感想

ではここで、参加していただいた皆様からの感想を紹介させていただきます。

- ・川の生き物を知ることができて良かった。
- ・先生と一緒に大きな魚を捕まえることができて楽しかった。
- ・一見、あまり生き物がいないように思われるところにもとても多くの種類の生き物がいて驚いた。  
川もきれいで気持ち良かった。
- ・魚があまり採れなかったが、それでも楽しかった。
- ・流しそうめんを食べて、夏を感じることができた。  
川だけでなく、違う楽しみがあるのも良かった。
- ・普段はできない貴重な体験ができた。
- ・小さい子どもにもわかりやすい内容で、集中して講義に取り組んでいました。
- ・川で遊ぶだけでは分からない生き物の生態を知ることができて、とても勉強になった。



# 森林探検隊

興津川保全市民会議 事業委員 (S-GIT) 奥寺利充

## 3年ぶりの森林探検隊

去年、一昨年と雨で中止になり3年ぶりの森林探検隊です。参加者は駐車場からヤギを道連れに嶺の子山荘まで歩いて登ってきました。以前は車で上がったのですが、今は、周りの景色を見ながら歩いて上ってきます。

参加者全員が集合し、今日の予定を確認したら早速、森林探検隊の出発です。まずはイノシシ捕獲の檻を見学しますが、捕獲されていませんでした。本当は実際に捕まえたイノシシが暴れているのを見たいものです。



## 丸木橋渡りと急斜面の山登り

次は沢を歩いて丸木橋のあるところまで登ります。丸木橋を渡るのは、簡単なようでちょっと勇気がいるのです。

さらに山は急斜面になり補助ロープにつかまってよじ登るのですが、落石があったりしてヒヤリとする場面もあるのです。

この山登りと沢歩きは大人から見ると何てことはないように思いますが、子どもには成長過程の必須な体験なのだと思います。学校の遠足ではここまでしないでしょうから。



## 『空中スライダー』で谷渡り

いよいよ探検隊のハイライト『空中スライダー』に到着しました。ワイヤーに吊り下がり樹間を滑空するのですが、感心なことに小さい子でも、今までビビってパスした子はありませぬ。楽屋の裏話で恐縮ですが、このワイヤーを張る準備には手間暇がかかりますので、森林探検隊が中止になるとがっかりします。

## 杉の大木の伐採実演

森林探検隊では毎回新しいメニューを考えます。今回は杉の大木を伐採する様子を観てもらいました。切ったのはS-GIT女性会員の森さんです。昨今は林業女子と云って林業に就く女性が増えてきました。彼女はチェーンソーを扱う訓練を受け、資格も持っています。浜松市の会社員ですが、今日の伐採の模範伐採のために、朝早く駆けつけてくれました。



直径 50cm 程のスギの木を伐倒しました



- ・ 険しい山登り、ドキドキして冒険のようだった。
- ・ 普段できないことを体験でき、森のことも教えてもらった。
- ・ あんなに美味しいしし鍋は初めてだ。キノコ美味しかった。
- ・ 弓矢づくりでは、子どもに指導でき、親の威厳を示せた。
- ・ 谷を渡るロープスライダーが楽しかった。
- ・ 大木を倒すチェーンソー作業を初めて見た。迫力があった。
- ・ S-GIT の名前は知っていたが、具体的な作業を始めて見た。
- ・ 火起こしのコツを教えてもらった。
- ・ 弓矢体験。長い間生きてきて初めてだった。楽しかった。



# 市民の森づくり

## お昼は猪鍋でお腹がいっぱいに

山で活動すると腹も減ります。今日の猪鍋の肉はGIT会員の星野さんの提供です。星野さんは猟師でもあり、自分で捕獲した猪の肉をたくさん持ってきてくれました。

## 午後はジャンボシーソーなどで遊びました

昼食後はジャンボシーソーで遊び、午後から竹細工で弓矢と竹ぼっくりを作りました。また、弓矢は大人気で、夢中で矢を射って遊ぶ様子を見ると、こっちも童心に帰った気分です。



弓矢、火起こし、竹細工など、普段学校等ではできないことを体験し・楽しく過ごしました。



## 嶺の子山荘を子どもたちに解放

子どもたちが元気に過ごすこのフィールドは、嶺の子山荘といいます。ここのオーナーの故片瀬実さんは「山荘を一年中、子供に開放したい」と言っていました。

私も思うのですが学校の課外授業ではできない体験を、この嶺の子の森でやれたらいいなと思っています。

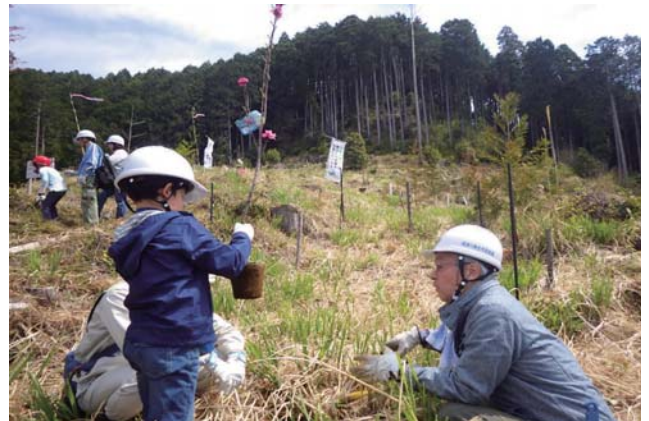
森林探検隊は、とにかく山を歩きまわって「ここは街中とはちょっと違うぞ」ということを、少年の脳とからだに記憶させ、自然の中で遊び回ることが大好きになり、大切にしたい子になる用にと考えています。

## 山荘での宿泊探検も企画しています

そのようなことで、2018年の森林探検隊の企画は、希望者には山荘に泊まり夜の探検隊をしてもらうことにします。こう御期待!!

## ～市民の森づくりの1年～

平成29年度も、4月には、植林と竹の子掘りを行いました。植林樹はシカに食べられないように、できる限り大きな苗木を植えました。



2月は地ごしらえとベンチづくりを行い、作業の合間に休憩できるようになりました。



市民の森はとても日当たりが良く眺めの良いところです。一緒に楽しく植林活動を楽しみましょう。



事業委員 白井久男（みどり情報局静岡）

## 平成29年度興津川市民会議総会開催

平成29年6月3日（土）清水庁舎3階会議室にて開催しました。

### 望月昭宏新会長の就任報告

総会に先立ち会長の改選報告として、静岡商工会議所副会頭の前山田訓史氏から望月昭宏副会頭に就任して頂いた事を報告しました。

そして、望月事業委員長と森口事務局長より平成28年度事業、収支決算と平成29年度事業計画、収支予算案が報告され審議後、賛成多数で可決されました。



望月昭宏新会長の挨拶と議事進行

事業の取組としては、年3回の市民の森づくりと川のセミナーは予定どおり実施できましたが、11月の森林探検隊は雨のため中止となりました。森林探検隊は、例年と同様に、森林の冒険ハイクと30名の空中スライダー体験、竹細工や火起こし体験を準備していましたが残念でした。引き続き興津川とその山々に親しむ体験活動を企画したいと思います。

## 記念講演会

記念講演会として「野生鳥獣による食害被害と新たな捕獲技術について」と題して静岡県自然保護課大橋正孝様にご講演を頂きました。



静岡県自然保護課 大橋正孝氏

## ニホンジカの捕獲技術の森林技術賞を受賞

大橋様は県農林技術研究所・森林研究センターに勤務されニホンジカの効率的な新捕獲技術・体制を開発、普及させたとして2016年に日本森林技術協会から森林技術賞を受賞されました。県職員が受賞するのは19年ぶりの快挙だそうです。

講演では、自作の鹿笛を実際に鳴らしてみせたり、バッテリーによるショックわな仕掛けを見せていただきました。また、映像を見て、シカを瞬時に苦痛を与えず狙撃する専門的技術を確立していることには感心しました。

また、ニホンジカの繁殖力はすさまじく、放置するとたちまち増えてしまい、山林や農地などに被害を及ぼすと言うことであり、山を保全するには、野生動物の適正数を管理する事が必要という説明に、改めて納得しました。

私たちは森づくりで植林やその手入れの経験はありますが、動物を捕獲する事は今までなかったので大変興味のある話を聞く機会となりました。

また、聴講者の皆様も関心が深く、講演終了後にも大橋さんに使用する仕掛けわなのいろいろな種類や設置方法について、とお話をしていました。



講演終了後も関心を持って話をお聞きしました

# 興津川クリーン作戦に参加して

興津川保全市民会議事務局 静岡市役所 環境創造課 伊藤 晃伸

## 「興津川クリーン作戦について」

当市民会議の活動の一環として9月2日（土）に興津川クリーン作戦を実施しました。当日は大変気持ちの良い快晴で、1,000人近い方々が参加しました。

このイベントは静岡市と共催で実施している「清流クリーン作戦」の一環であり、清水区の貴重な水源となっている興津川を保全していくため、地域住民や地元企業の皆様が協力して、興津川流域9か所において重点的に清掃活動を実施するものです。

## 今年は530kgで、年々減少しています

今年のごみ収集量は可燃・不燃ごみあわせて530kgで、年々減少傾向となっています。これもひとえに参加された皆様の長年のご協力あつてのことと思います。

事務局は和田島キャンプ適地周辺のメイン会場での清掃活動に参加しましたが、朝の早い時間にも関わらず、地元住民や企業の皆様150人以上の参加により行いました。



毎年9月の第1土曜日に清掃活動が行われている

望月昭宏興津川保全市民会議会長の挨拶、望月誠一郎事業委員長からの注意事項説明の後、各自清掃活動を開始していただきました。

長年の清掃活動の甲斐あってか、川がごみであふれているということはなく、一見するとなんのごみも落ちていないように見受けられます。しかし、川底や川辺の草木の隙間などを丁寧に探していくと、意外な量のごみが集まりました。集めたごみの分別も参加された皆様に協力していただきました。



汗まみれになりながらの清掃活動

活動後は当市民会議から冷茶のサービスを実施し、両河内のお茶のおいしさを知っていただくことができたのではないのでしょうか。

## 各クリーン作戦会場の様子

事務局では、和田島での活動後、各ポイントを確認しましたが、いずれの場所でもある程度のごみは確認できました。その中で、特に多くのゴミが回収されたのは河口付近でした。河口付近の海浜地域ということもあり、海から流れ着いたごみはもちろんのこと、BBQの残骸が多く捨てられていました。多くの方が清掃活動に参加してくださる一方、平気でごみを海辺に捨てていく人たちがいることを大変残念に思います。クリーン作戦のような清掃活動を市民会議や静岡市の事業で継続して実施しつつ、並行して啓発活動にも力をいれていかなければならないと感じています。



清掃活動後の参加者グループ毎の連絡会

## 「サイエンスピクニック 2017」への参加

市民会議の活動に協力してくれる方  
お試し参加募集中です！

3月10日(土)、11日(日)に静岡科学館る・く・るで開催された「サイエンスピクニック 2017」に今年も参加しました。

サイエンスピクニックは、科学を楽しみ、その探究と普及に取り組む市民グループ、ボランティア、高校の科学部、生物研究部、銀行、ガス会社など、県内外から多様な参加団体(出展者)により開催されました。

それぞれの出展ブースでは、活動の様子をパネルで紹介したり、実験結果を映像でわかりやすく説明するなど工夫していました。

### 市民会議のブースでは、竹の花瓶づくりと ドングリのトトロ人形づくり

今回は、参加者と一緒に竹を加工した花瓶づくりやドングリにトトロの絵を描いた人形づくりを行いました。また、市民会議の活動を紹介するパネルの設置や今後の活動のパンフレットを配布し、PRを行いました。



活動は、この「やませみ通信」に紹介しているような内容です。

竹の子鍋、しし鍋、流しそうめんづくり、山での植林、川の学習や遊びの活動支援、アユ釣りや山仕事が好きの方など、特技のある方、ない方大歓迎です。  
●会社をリタイア(現在、今後)して、何か地域活動をしてみたいが、何ができるかわからない方など、是非一度、お試しで参加してみてください。

●年齢、男女などは問いません。

●月1回程度の活動です

●主催者も参加者も楽しく活動することが基本です。



一度試しに来てみてください。

継続するかどうかは、それから決めてください。  
年間参加、部分参加など今後のことは相談です。

申し込み問い合わせは、遠慮なく事務局まで！

TEL. 054-221-1319

興津川保全市民会議の会員になり、「命の水」を守るため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000円/年  
個人会員 1,000円/年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。  
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議  
編集 興津川保全市民会議 事業委員会  
編集以外 (株)地域デザイン研究所(望月)  
発行日 平成30年3月

興津川保全市民会議事務局

(静岡市環境創造課内)

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-221-1492

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1



ホームページもご覧下さい <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

興津川流域で、重要文化財に匹敵するという系魚川静岡構造線の静岡側の露頭が発見されました。早川町の視察や興津川の現地視察を通して学習し、その重要さが解りました。大切に保存・活用したいですね。